

CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会
宣教ニュース

N.113 - 2018年5月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

日を追うごとに、若者のシノドスはますます重みと色彩を帯びようになっています。同時に私たちは、ad gentesすべての人への宣教の熱意に満ちた教皇ベネディクト十五世の使徒的書簡『マクシムム・イルドMaximum Illud』の百周年を思いつつ、2019年の特別宣教月間の準備を進めています。

宣教師がいなければ「宣教」もありません。したがって、“ad gentes, ad exteros, ad vitamすべての人へ、母国を後にして、生涯をかけて”福音を告げる宣教師の召命を促進することが必要です。私たちは情熱をもってそれを果たさなければなりません：「宣教地に遣わされる召命のしるしはその人に見られるならすぐに」とベネディクト十五世は述べています。最良の人材を派遣しなければなりません：「海外宣教に取り組む諸修道会、宣教会の総長は、養成中の会員の中の香り高い“花”だけを宣教地にささげるよう、配慮しますように。」教皇フランシスコは、第27回総会の際に、ほとんど同じ言葉で私たちに語りかけました：「最良の会員を遣わさなければなりません！ 最良の者を！」

必要に応えるこの開かれた心は、最初の一回目の出発のためだけでなく、恒久的でなければなりません。一つの宣教地で長年暮らし働いた後でも、次の宣教地へと移る心構えのある宣教師を私たちは必要としています。特別にマリアのものであるこの月に、私たちの母、キリスト者の扶けに願い求めます、私たちの心に宣教への惜しみない“fiatなれかし”を注いでくださるようにと！



J. Basanes

宣教顧問

ギジェルモ・バサニェス神父



扶助者聖マリア大聖堂の内部で大きな位置を占めるロレンツォーネによる有名な絵は、ドン・ボスコが思い描いていたものより小さいものです。ドン・ボスコの当初の構想では、使徒たちに加え殉教者、預言者、純潔を生きた人々、証聖者の姿、歴史を通じてのマリアの数々の勝利、世界各地のさまざまな民族も描かれるはずでした。画家は、そのような絵は大きすぎて大聖堂に納めきれないとドン・ボスコを説得しました。ドン・ボスコはその現実を受け入れました。その後、1891年に、ドン・ボスコの構想の残りの部分をロツリーニがドームに描きました。そこには福音の使徒的広がりを描く宣教のテーマがはっきり見られます：多種多様な信徒、世界中に広がるサレジオ家族の成長（バタゴニアに降り立つ最初の宣教師たち）、宣教する偉大な諸修道会などです。それは「ドン・ボスコの心が浜辺の砂の数ほど大きかった」ことを示しています。絵には、マリアに導かれた勝利する教会、闘う教会が、一つになって御父に普遍的賛美をささげる様子が描かれています。「キリスト者の扶けマリア」と呼びかける祈りは、あらゆる民族を抱擁しようとしています。

絵のすべての要素の解説にはより多くの紙面が必要ですが、いくつか使徒的な意味のこめられたものだけ取り上げましょう：

この絵は、人々に信仰の内容を教えるすばらしい道具になります。バランスの取れた調和のうちに、三位一体の神を中心に、空と勝利した教会が描かれています。下のほうには、大聖堂、オラトリオ、スベルガの丘が見えます。空は赤みがかっていて、嵐を予感させます。これらの描写は、オラトリオの心をもって取り組む私たちの福音宣教を表します。それは数々の大きな挑戦のただ中、若者たちの間で行われますが、私たちの御母の助けのもとにあります。

マリアを表すさまざまなシンボルが描かれています：縦方向に見られるのは - 腕に抱かれた幼な子、星、無原罪の聖マリアであること、金の冠、王笏などです。冠を飾る星はStella Maris海の星を思い起させます。船乗りを安全な港へと導き、沖へ漕ぎ出し網を降ろすようにと招く星です。王笏は、その価値に加え、良い羊飼いの杖に相当する“羊飼いの婦人”の杖を思い起させます。マリアが世に差し出される幼な子は腕を大きく広げておられ、私たちの予防養育法の霊性を思わせます：教え、祝福する（本の上のイエス、手に世界を持つ、あるいは祝福されるイエスの姿）というよりも、微笑み、迎えるイエスです。しかし、最も印象深い宣教的、使徒的特徴が表れているのは、聖母を囲む使徒と福音記者たちです。使徒と福音記者の姿は、宣教の道と殉教を表します。使徒たちはそれぞれ福音をたずさえ、地上のほかのところへ赴き、福音のために命をささげます。殉教の道具がそのことを示しています。使徒たちの中に聖パウロの姿が見えるのは興味深いことです。聖パウロは信徒たちを見えています：その燃えるようなまなざしは聖パウロの宣教の冒険を思い起させます。ここに、福音の徹底性を生きる“出かけて行く”教会があります。

力強い宣教のメッセージをこめて



「心を開くように、若者たちが助けてくれた」

私はベトナムで、教区が司牧する小教区に生まれました。司祭になりたいという望みを持っていました。ドメニコ・サビオの伝記を読み、彼の人生を育んだ神父が大好きでした。ドン・ボスコの映画を見て感銘を受けました。心の中で思いました。「こんな司祭になりたい」と。サレジオ会と出会ってから、私の宣教師の召命は育まれていきました。私は2014年の末、実地課程のためブラジルに来ました。その4年間、いろいろな大学で学び、さまざまな文化的、社会的、民族的な体験をし、豊かになりました。ブラジル・カンボ・グランジ管区 (BCG) に着くとすぐに、先住民族の中で働く宣教地に送られました。ポルトガル語も話せませんでしたし、ましてや私の“約束の地”の人々、サヴァンテの言葉はもっと話せませんでした。宣教地での私は、耳も口もふさがれ、その共同体で“壁の向こう”の存在でした。それは私にとって困難な、しかし豊かに報いられる宣教師体験の始まりでした。私

は1年半そこで暮らしました。

私は同時に二つの文化を学びはじめました：ブラジルの西洋文化と、サヴァンテの文化です。言葉の問題から危機を経験し、家に帰りたくなったこともありました。私は祈り、振り返り、とどまることにしました。とどまると決心したその時から、新しい言語を学ぶ力とその望みを見だし、私の歩みは積極的なものになりました。サヴァンテの宣教地での養成でいちばん良かったのは、先住民族の人々と暮らした時期です。私は「ワイ・ア」というサヴァンテの大切な文化的祭りに参加しました。この祭りは15年ごとに行われるもので、それに参加する機会と喜びに恵まれたのです。この祭りに参加し、熱い陽ざしの中、シャツを脱いで、水を飲まず、踊ったり歌ったりし、サヴァンテの若者たちと共に朝から夕方4時まで続く儀式に参加し、私は彼らの一員と認められました。

サヴァンテの村で暮らしたこの時期の後、私はマト・グロッソの町に送られ、ポルトガル語を学び、社会事業の手伝いをしました。このサレジオ会支部での仕事は、ポルトガル語の勉強も加わっていたので、とても多忙でした。生活は活動や挑戦でいっぱいでした。私は疲れていましたが、くじけてはいませんでした。「これが自分の召命だ。ドン・ボスコの息子である私はここにいる」と感じていたからです。この時期、私はたくさんの方を若者たちから学びました。若者たちは言葉だけでなく、心を開いていくにはどうしたらよいかも教えてくれました。私たちの所にいる若者の多くはすでに開かれた心を持っていました。彼らは私に尋ねるのです。「助けが必要ですか?」とか、「手伝いしましょうか?」と。そして創造性に満ちたさまざまな司牧活動に招いてくれました。

今私は、サンパウロで神学の2年目の勉強中です。ここは多様な文化出身の人々から成る大きな共同体です。私たちの中には宣教師もいます—ベトナムやインドネシアから、また偉大なブラジルのさまざまな地域から。その中でサレジオ会生活の豊かな体験をし、兄弟たちからブラジルの文化を学んでいます。他方、これほど大きな共同体であることの挑戦があります。人数が多いので、全員と親しい関係を築けないのです。勉強のほか、私たちは施設や小教区で使徒職にたずさわっています。私は去年から、何百人もの子どもや若者の通うオラトリオに行っています。私はそのオラトリオが大好きです。ドン・ボスコのいちばんのお気に入り、貧しい子ども・若者たちと出会うことができるからです！彼らと一緒にいるとき、サレジオ会召命を生きる幸せを感じます。

宣教師になりたいと望む若いサレジオ会員に二つ助言をしたいと思います：まず—よりサレジオ会員らしくなり、会憲をより忠実に生きること、そうすればすでに宣教師なのです！二つ目は、サレジオの喜びを生きること。内から来る喜び、イエス・キリストとの親密さから生まれる喜び、あるいは深く下ろした根によって養われる微笑みです。あなたのその喜びは、人生の挑戦を乗り越えるよう若者を助けるでしょう。困難やうまくいかないことは常にあるでしょう、しかし、喜びもあります。喜びを選ぶかどうかは私たち自身にかかっているのです。

ベトナム出身、ブラジルの宣教師 **ヨセフ・トラン・バン・リック**



聖マリア・ドメニカ・マザレロ (1837-1881)

はドン・ボスコとともに扶助者聖マリア修道女会 (サレジアン・シスターズ) の共同創立者。マドレ・マザレロは共同体のアニメーター、養成者、導き手として豊かな霊的母性に恵まれ、一人ひとりに最良のことを真に求めました。「マドレ・マザレロは長上としての務めをあらゆる意味で優れて果たした：善良で誠実、賢明で行動が速やかであった。速やかというのは、姉妹を正すことを躊躇せず、むしろ強く諭したが、それはただより大きな善を望んでのことであると、聞いた者が印象づけられるような諭し方だった。」

サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 **ピエールイジ・カメローニ** 神父

サレジオ家族の信徒のために

サレジオ家族の信徒が、若者への福音宣教、現代世界のさまざまな事象の福音化において、今、投げかけられている挑戦に照らし、ドン・ボスコの創意工夫を発揮するものでありますように。

サレジオ家族は、数多くの奉獻生活者に加え、コオペレーター、同窓生など、多くの信徒によって成り立っています。信徒たちはさまざまな在俗の場で、光、塩であるようにと呼ばれています。信徒のために祈りましょう。福音を告げ知らせるために、聖霊の光と創意工夫を発揮するものでありますように。



サレジオ会の宣教の意向

